



匂い泥棒

Joanne Bloch
(retold folktale)

Rebecca Riley

日本語: 井戸あすか



幼児期からの
おうち算数

Early
Family
Math



Interactive Story

日本語

保護者の方へ

3つのレベル お子さんに合ったレベルを選びましょう。質問やコメントをする時には考える時間を与えましょう。お子さんが答えに詰まった時は手助けをし、正しい答えには少し膨らませた質問やコメントをしてみましょう。

レベル**1** 簡単で直接的な質問をします。見えるものについて尋ねたり指をさしたりしましょう。おもちゃはどこかな？何をしているのかな？その名前は何かな？色は何かな？いくつボールがあるかな？

レベル**2** お話のある部分について一般的な質問または自由に答えられる質問をしてみましょう。ここで何が起きていると思う？この物の仲間は何かな？

レベル**3** お話の筋について質問をしてみましょう。何が起こったのかな？次はどうなるかな？これと似たようなことが前にあったかな？この時、この子はどう感じているかな？

算数のテーマと内容 この物語ではスキップ・カウンティング(飛ばし数え)と形について練習します。練習内容:飛ばし数え(1、2、3、4、6)による数え方、かけ算、わり算、予測、長方形、三角形

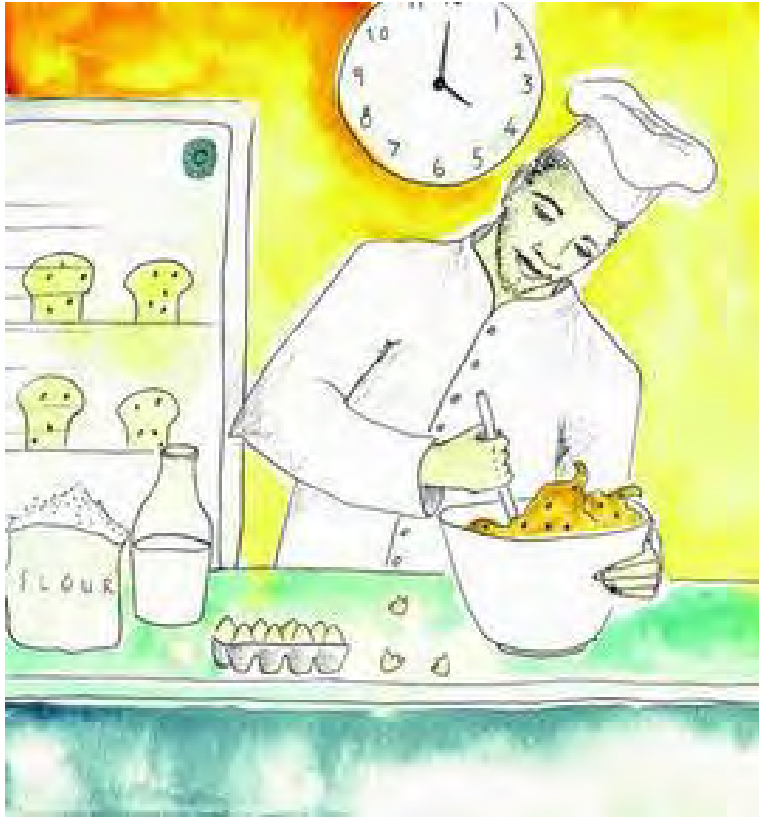
楽しく読んで話しましょう！ 書かれている質問やコメントはほんの一例に過ぎません。

1 回目は赤の質問とコメントを読みます。

2 回目は青の質問とコメントを読みます。

3 回目は緑の質問とコメントを読みます。

その後はお子さんの興味に合わせて、楽しい方向に話を進めてください。



シャバングさんは町一番のパン職人です。美味しいと評判のパン、それにケーキやビスケットを焼くため、毎日朝4時に起きて生地をこねます。

1. 料理は好きですか？パンを作るのはとても楽しそうですね。パンを作るときは材料をきちんと測ったり数えたりしなければいけません。
2. 4つの卵が2列に並んでいます。1つ飛ばし、2つ飛ばし、または4つ飛ばしで数えることができますね。あなたはどの方法で数えましたか？8個入りの卵パックを見たことはありますか？
3. パン屋さんが朝早く起きるのはなぜだと思いますか？まだ外が暗いうちから早起するのは好きですか？それともまだ寝ている方がいいと思いますか？



朝8時になると、町の人々はパン屋さんの前を歩いて仕事や学校へと向かいます。この頃にはもうケーキやパンはほとんど焼き上がり、窓の隙間からとても美味しい匂いが漂ってきます。

1. 町の人たちが朝ごはんの時間に間に合うように、パン屋さんは朝早くからパンを焼き始めましたね。町の人たちは、パン屋さんがパンを焼き終えるまで待つことはできません。なぜでしょう？

2. 前日の夜にパンを焼いておけば、そんなに早起きをしなくてもすんだはずですが、でもそうしなかったのはなぜでしょう？

3. このパン屋さんはとても小さなお店です。調理をする場所やパンを並べる場所、それにお客さんが店内を歩ける場所はあると思いますか？



たくさんの人たちが朝食にパンを買っていきました。シャバングさんは美味しいと評判の出来立ての美味しいシナモンパンや、温かくてきつね色に焼き上がったビスケットをお客さんに手渡すと、嬉しそうに微笑みました。

1. 時計を見るともう1時です。朝食を買うのに遅い時間です。あなたはお昼過ぎに朝食を食べたことはありますか？
2. 箱の中のパンが出来立てで温かいということが分かるのはどの部分ですか？
3. シャバングさんはパン屋さんの仕事が好きで自分の作る料理にとっても気を配っています。この絵の中でそれが分かる部分はどこですか？あなたには、とても大好きで大切にしていることはありますか？



でも、世の中にはあまり恵まれていない人たちもいます。彼らはお金がなく貧乏で、あの美味しいパンやケーキやビスケットを何一つ買うことができません。できるのは、パン屋さんの窓から漂ってくる美味しい匂いを楽しむことだけ。貧しい人たちがパン屋さんの近くで匂いをかいでいるのに気が付くと、シャバングさんは怒って言いました。「私の美味しいパンの匂いをかぐとは、なんてやつだ！」

1. あなたはどう思いますか？ 貧しい人たちは、シャバングさんのお店から漂ってくる美味しい匂いをかいても良いと思いますか？

2. 自分の物を他の人と分け合える人もいれば、自分が一生懸命に作った物は人にはあげたくないと思う人もいます。あなたはどちらの方が幸せな気持ちになれると思いますか？

3. 3本のパンには、それぞれ3カ所切れ目が入っています。切れ目は全部でいくつでしょう？ 3つ飛ばしで計算しましたか？ 3×3 はいくつでしょう？



「あの匂いは私の匂いだ。私が作ったものなのだから私のものだ！その美味しい匂いをかぎたいなら、お金を払ってもらわなくちゃ困る！」シャバングさんはふんぷん怒っておでこの汗を拭くと、オーブンの方に向き直って、お昼どきにやって来るお客さんのためにパンを焼き始めました。

1. あなたはシャバングさんの言うことに賛成ですか？匂いは自分の持ち物だと思いますか？
2. 私たちはたくさんの感覚を持っています。例えば、何かを触る感覚です。他にはどんな感覚があるでしょう？
3. 私たちには、触る、味わうなど、色々な感覚があります。そして、誰が自分に触ってもいいのか、誰が自分の食べ物食べて味わっていいのかは、私たち自身が決めています。勝手に触ったり食べたりすることはさせませんね。では、それ以外の感覚は、私たちが決めることはできますか？



ここに、ある一人のおばあさんがいました。マ・シャンゲという名前のそのおばあさんは、毎朝パン屋さんから漂ってくる美味しい匂いがたまらなく好きでした。マ・シャンゲさんは毎晩公園のベンチで寝泊まりしていました。

1. マ・シャンゲさんはどうして公園のベンチで寝泊まりしているのだと思いますか？雨の日はどうしているのでしょうか？

2. 外で寝泊まりしたことはありますか？自然の中で夜空を眺めるのは好きですか？居心地が悪かったり怖かったりしますか？それとも自然を感じて嬉しい気持ちになりますか？

3. 夜空にいくつ星があるのか数えたことはありますか？空がとても澄んでいると、星がたくさんありすぎて数え切れないほどですが、それでも挑戦してみるのとはとても楽しいことです。



何週間か前、ある親切な人がマ・シャングさんにシナモンパンを買うためのお金をくれました。マ・シャングさんはパンを買って公園に帰り、とてもゆっくりと味わって食べました。唇をぺろりとなめ、残ったパンくずは鳥たちにあげました。

1. えさをあげる鳥たちのなんと多いこと！それぞれの鳥にパンくずを3つずつあげる場合、全部でパンくずはいくつ必要か、3つ飛ばしで数えてみましょう。

2. この中の一つのパンくずを取り、もっと細かくバラバラにしたら、いくつのパンくずができるか予想してみましょう。数えるのが大変なときは予想するのが一番の方法です。

3. マ・シャングさんは大好きなパンを少しだけ分けてあげました。なぜでしょう？全部一人で食べてしまうよりも鳥たちに分けてあげた方が幸せなのでしょうか？あなたは今までに、自分の大好きな物を必要としている人にあげたり、楽しんでもらうために誰かにあげたことはありますか？



マ・シャングさんにはもうパンを買うお金はありません。でもあのパンを食べて以来、またいつか食べたいと、ずっと夢見ていました。毎朝シャングさんのお店の前をゆっくり通り過ぎては、あの美味しい匂いをかいで夢見ごちで微笑むのでした。

1. 切れ目が少し分かりづらいので、切れ目はそれぞれ4つあることにしましょう。6つのパンには全部で切れ目がいくつあるでしょう？4つ飛ばしや6つ飛ばしで数えましたか？それとも他の方法で数えましたか？
2. 下の段の棚にはいくつのパンがあるか、ぱっと見て予想してみましょう。
3. 今度はパンを数えて、自分の予想がどのくらい合っていたか確認しましょう。数える方法はいくつもあります。一つは、2つ飛ばして数える方法です。あなたはどんな方法で数えましたか？



マ・シャンゲさんが、来る日も来る日も匂いをかぎに来るので、シャバングさんはとても腹を立てていました。マ・シャンゲさんが毎日やって来ると、ますます怒りが込み上げてきました。そしてとうとうある冬の朝、とても機嫌の悪かったシャバングさんはお店の外へ飛び出すと、マ・シャンゲさんの腕をぐいと掴んで怒鳴りつけました。「私のパンの匂いを盗むとはなんてやつだ！おまえは匂い泥棒だ！」シャバングさんは着けていたエプロンで手を拭いて、ぐいっと外すと、お店の中へ投げ入れました。

1. 壁のレンガは長方形です。長方形は4つの真っ直ぐな側面と、このページの角と同じように角があります。この絵の中にまだ長方形はありますか？あなたの身の回りに長方形のものはありますか？
2. パン屋さんの言うことは正しいと思いますか？マ・

シャンゲさんはパン屋さんに近づいてはいけないと思いますか？

3. 同じ列のレンガが、その上の列と互い違いになっていることに注目しましょう。レンガはいつもこのようになっています。もし全部揃えて積み上げたら壁は崩れやすくなってしまいます。なぜだか考えてみましょう。



「このずうずうしい女め。私のパンの匂いを盗むのも今日でおしまいだぞ！」とシャバングさんは大声で言う。マ・シャンゲさんを裁判所のヌウェンニャ判事の元へと連れて行きました。判事は大きくてぴかぴかの机に座っていました。困った様子で震えているマ・シャンゲさんを引っ張りながら、シャバングさんは嵐のような勢いでづかづかと入ってきました。

1. 絵の中にある長方形を見つけましょう。部屋や建物を作るとき、長方形がたくさん使われるのはなぜでしょう？

2. 三角形には3つの面があり、より強くてしっかりとした形です。どうして三角形だけを使って建物を建てたりはしないのでしょうか？

3. 長方形以外の形を使った建物は見たことがありますか？珍しい形を使って造られた建物を見つけるのはとても楽しいですね。



「おはようございます。」判事は落ち着いた声で言いました。「判事、裁きをお願いします！」とシャバングさんは怒り狂って言いました。「私はこの女に文句があるのです。この3ヶ月ほど、この女は、私のパンが出来立てで一番美味しい匂いがする時間に、毎朝お店の前を通り過ぎてはその匂いを盗んでいくんです。この女は、盗んだ匂いの分のお金を払うべきだと思うのです！」

1. この物語の中で、シャバングさんがお店の商品ではなく匂いに対してお金を払うように言ったのは、この時が初めてです。想像してみましょう。もしお店のメニューに色々な種類の匂いが書かれていたらどれほど馬鹿げているか分かりますね。
2. いい匂いをかぐと、とても幸せな気持ちになれます。でもお金を払う必要はあるのでしょうか？いい匂いには、どのくらいの価値があるのでしょうか？
3. 香水を買う人もいますし、料理のためにハーブなどを買う人もいます。これは、匂いを買うということの一つの例です。



判事は、その大きくて髪のない頭をかきながらしばらく考えたあと、ゴホンと咳払いをしてシャバングさんにこう言いました。「よろしい。判決を言い渡します。」判事はマ・シャンゲさんの方を向いて言いました。「お金は今いくら持っていますか？」

1. この絵の中にはもっとたくさんの長方形があります。よく見ると、人間が作ったほぼ全ての物には長方形が使われていることが分かりますね。
2. 判事は、マ・シャンゲさんのお金で何をするつもりだと思いますか？判事はパンの匂いによってどうやって値段をつけるのでしょうか？
3. この物語の結末はどうなると思いますか？



「2ランドだけです。」マ・シャンゲさんは声を詰まらせながら答えました。「分かりました。ではそれを私に渡してください。」マ・シャンゲさんは着古したカーディガンのポケットに手を入れ、2枚のコインを取り出し、判事に手渡しました。判事はコインを受け取ると、丁寧にお礼を言いました。

1. 判事はマ・シャンゲさんに、持っている全てのお金を差し出すよう言いました。マ・シャンゲさんのわずかなお金を全てパン屋さんに渡してしまうのは、とてもひどいことのように思えます。たとえそれがたった2ランドだったとしても。(現在の価値でアメリカやヨーロッパの約15セントに相当)

2. ランドは南アフリカ共和国で使われている通貨です。一番小さい硬貨は5セントです。5セント硬貨が何個あると1ランドになるでしょう？まだ割り算を習っていない場合は、5つ飛ばして数えて、5をいくつ使ったか数えましょう。

3. 南アフリカでは10セント硬貨も使われています。10セント硬貨が何個あれば1ランドになるでしょう？



それから、判事はその大きな手の中でコインを振りながら、チャラチャラという音を立てました。「これが私の判決です。」判事はパン屋さんに言いました。「罰というものは、その罪に見合ったものでなければなりません。ですから、マ・シャンゲさんが盗んだ匂いに対して払うべきなのは、マ・シャンゲさんのお金が出す音だけです。それでは二人とも、良い一日を。」シャバングさんは深く考え込んだ様子でした。そして、自分がどれだけ理不尽なことを言っていたのかに気が付くと、ゆっくりドアの方を向き、帰って行きました。

1. 判事のすばらしい判決で、シャバングさんとマ・シャンゲさんの両方に正義がもたらされました。シャバングさんは自分が公平に裁かれたと感じましたか？またシャバングさんはこの日、大切なことを学びましたか？
2. シャバングさんは自分が理不尽なことを言っていたことによりやく気付くことができました。もしマ・シャンゲさんにもっと何かしてあげられていれば、なお良かったでしょう。まず、マ・シャンゲさんに謝ることがその大切な一歩です。
3. もし他にあるとすれば、シャバングさんはマ・シャンゲさんには何をしてあげられたと思いますか？



することはできないけれど、あなたが誰かを助けられる時は必ずやってきます。そしてその誰かの人生を大きく変えることができるかもしれないのです。

判事は微笑むと、マ・シャンゲさんにお金を返しました。「ところで、マ・シャンゲさん」判事はかばんから茶色い紙袋を取り出して言いました。「一緒に朝食はいかがですか？このパンは30分前に買ったばかりで、まだ温かいですよ。」

1. 判事はマ・シャンゲさんがとても貧しくてお腹を空かせていることに気が付きました。シャパンゲさんも、初めから判事のように親切な態度でマ・シャンゲさんに接するべきでした。

2. 誰かを助けると言うことは簡単ではありません。誰を助ければいいのか？どうやって助ければいいのか？どのくらい助ければいいのか？このような疑問が思い浮かぶでしょう。

3. あなたは困っている人を助けたことはありますか？誰にでも助けが必要な時があります。全ての人を助け

The smell thief

Author -- JoanneBloch (retold folktale)

Illustration -- Rebecca Riley

Language -- English

Level -- Read aloud

© Nal'ibali and Praesa 2014

Creative Commons: Attribution-Non Commercial 3.0

Source www.africanstorybook.org

Original source www.nalibali.org

